

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790900013		
法人名	医療法人 光麗会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 森の都		
所在地	相馬市柚木字大関64-17		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和5年6月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が介護老人保健施設と併設している事や自然が豊かな環境である事を活かし、季節に応じて行事やレクリエーションを考え、ご利用者様と職員の信頼関係を深める事を日々意識し、またご家族様との連絡、相談も密に行いご家族様にも安心してもらえるよう支援に努めています。体調管理面では主治医と連携を図りご利用者様に安心して過ごしていただけるように努めています。

利用者本人・家族と職員との信頼関係を大切にし、本人・家族がここに住んでよかった、住んでもらってよかったと思えるよう、日々取り組んでいる。
運営推進会議、利用者家族、職員の意見や提案を積極的に取り入れ、職員を育てることで質の良いその人に合ったケアを模索しながら、一人ひとりが地域で生活できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際に基本理念と運営方針の読み合わせを行い、職員の意識向上に努めている。	法人の理念の趣意を踏まえ職員と話し合い事業所理念を作成している。利用者が笑顔で過ごし職員と気兼ねなく声を掛け合い、ここで生活できてよかったと言葉を貰える時に理念が活かされていると感じている。職員には、利用者本位のもとで接してほしいと伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	市民の方々にご理解を賜り、消防訓練の際にご協力をいただいている。またボランティア団体などに訪問をしていただき交流を図っている。	地域の祭り見物や各種の行事などの出向いて、地域の方と交流するようにしている。語り部やオカリナ演奏会のボランティアが訪問してくれている。事業所の行事に、地域の方に参加して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設に来訪していただいたり交流会などの場でも意見交換をしている。また相談い対しても積極的に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を職員会議の際に周知し更なるサービス向上に努めている。	地域密着型ということで外部との関わりを増やしてみようかと意見を貰い、他事業所を訪問するなどしている利用者が訪問先の方々とレクリエーションなどに一緒に参加され大変リフレッシュされ活性に繋がっている。いただいた意見を職員間でも共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市役所の担当部署に相談させていただいている。また、運営推進会議でも現状などを報告し常に運営状況等を把握していただけるように努めている。	入居希望について利用者の相談をしたり、介護保険情報や広報誌の提供を受けている。認知症地域ケア委員会へ委員として出席し意見交換をしている。毎月の入居状況報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設する介護老人保健施設とも協力し委員選出のうえ、委員会活動に参加し、その内容を施設内に周知している。また勉強会に参加し知識の習得に努めている。	利用者の生命または身体を保護する為、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他の方法により利用者の制限をしないことを原則にしている。言葉の拘束に気付いた時はその都度、職員間で意識し注意し合うようにしている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	併設する介護老人保健施設とも協力し委員選出のうえ、委員会活動に参加し、その内容を施設内に周知している。また勉強会に参加し知識の習得に努めている。	高齢者虐待防止について勉強会、内部、外部研修を通じて学び、知識を得ている。身体的虐待だけでなく、暴言や無視、いやがらせ、必要なケアの放棄等が含まれることを具体的に理解している。虐待行為を発見した場合は、市町村へ連絡し内容を報告するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により、知識の向上・共有化を行い、必要時には、市の担当部署と連携し速やかに対処できるように体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切・丁寧な説明を行い、同意していただき不安や疑問に関しては迅速に解決し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟に意見箱を設置し、随時ご意見をいただき、意見・ご要望に対し会議の議案として、解決できるように努めている。	利用者の家族との報告・連絡・相談を密に行っている。主治医変更の相談があり、協力医への変更を行い受診がスムーズになった例がある。寄せられた意見や要望は、毎月開催する職員会議やケアカンファレンスにて全職員に周知共有をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎週の会議にて職員の意見や提案等を取り上げ、それについて法人全体として取り組んでいる。	利用者の食形態について意見があり、ミキサーを購入し刻み食の方がミキサー食にした事によって食事摂取量の改善に繋がるなど、意見や要望を活かすようにしている。研修等の参加希望については、業務に支障がないようにシフト調整を行い参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産業区として職員から話しを聞きながら労働環境および福利厚生等の整備、調整に努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設した介護老人保健施設での勉強会への参加、外部研修ほか、施設独自の評価表にて各個人の能力把握に努めている。	職員間の状況等を共有したり、個別の相談の受け入れ態勢を重視し、職員の声に耳を傾けスキルアップに繋げるようにしている。初任者研修や実践者研修を活かし、職員の意欲向上を図り、積極的に直接介助を行い、思いや気付いた事を提案してくるようになってきている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協議会に加入し、毎月の研修会のほか、実践報告会に積極的に参加している。また、地域の同業者からもご協力をいただき交流会等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにはご本人とご家族様の要望を反映し入居までに職員に周知している。入居後もご本人の趣味嗜好の調査を怠らず生活に反映できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や相談に真摯に向き合い、良好な関係性に築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス提供ができるよう、法人内の他サービス事業所とも連携を測って支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が生活する上で、心許せる家族に近い存在になれるよう、傾聴・声掛けを行い、ご利用者から信用されるよう日々努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と定期的な報告・連絡・相談を行い、面会の際には、希望や要望を聞き、支援に反映できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設した介護老人保健施設のご利用者とは触れ合う機会を定期的に設けたり、見学、行事などを行い馴染みの場所や人と触れ合える環境を持てるように努めている。	利用者の希望で、地域の名所や商業施設、飲食店など、これまでのなじみの場所に出かけるようにしている。併設する老人保健施設に出向いた際に友人などと交流を図るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活からご利用者の関係性を把握し、ご利用者同士が気持ちよく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月発行する広報誌の送付や入院者への面会などを行っており、お受けした相談に対しても積極的に継続支援をいっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	本人の意思を尊重し、ご家族様の意見も取り入れ介護計画を作成し支援できるよう努めている。	入浴時や個別ケア時に、思いや意向を聞くことが多い。出された一人ひとりの思いは、ケアカンファレンスにて職員間で話し合い意向などの情報を共有し、統一した支援に努めるようにしている。日頃よりコミュニケーションを密にし、信頼関係を深めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報の把握、日々のご利用者との会話などから、情報を収集し職員間で情報を共有し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、バイタルチェックを行い、ご利用者の身体・精神状況を把握し記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を踏まえ、また主治医の意見も踏まえながら介護計画を作成している。	本人の状況と希望・課題を抽出し、希望に沿った達成できる目標を設定し、本人の得意とする事や好む事ができるような環境の設定や役割を持つよう計画を作成している。主治医や看護師からの指示や助言、ケアや処置の方法などの意見を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々人の記録を行い、ご利用者の状況の変化に伴い、ご本人・ご家族様と相談し介護計画に変更を行い支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や併設する介護老人保健施設の協力のもと、ご本人とご家族様の希望・要望により必要に応じた支援を提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会や公民館のご協力を得て、地域住民との関わりを持つことでご利用者が地域住民であることを認識して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、ご利用者やご家族様の望む、医療・病院を第一にの受診先として支援している。	人居前からのかかりつけ医の継続を基本にしている。協力医療機関とは在宅訪問診療となっている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目は家族対応となっている。受診後に結果の情報を連絡しあい、共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化を日々定時に申し送り、看護職のほか介護職もご利用者の体調管理に努めており、急激な体調の変化にも看護師が主治医との連携を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーにて病院側と情報の共有を図り、入院中は定期的に面会や電話での状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様から希望を伺い、そのような状態になった場合は指針を上げ、主治医とご家族様と連携しながら、できるだけ最後まで支援するように努める。	医療機関や事業所との連携、受診時や入退院時に関わってもらうようにしている。職員には、急変時や初期対応の訓練、併設する老人保健施設とも連携し勉強会に参加してもらっている。利用者や家族の要望を可能な限り反映させ要望に答えられるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設する介護老人保健施設とも連携をし、勉強会を通じて実施できるよう学んでおり、ご利用者の対応を周知して職員間の連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と地域の消防団にご協力をいただき、消防訓練を行っており、迅速かつ冷静に対応できるように努めている。	消防署立ち合いの訓練後に、避難誘導の手順や誘導の仕方などについての助言を貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるよう、シフトを調整している。夜間帯と日中帯の火災を想定して訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を鑑み、誇りを損なわない声掛けを行い、プライバシーに配慮した支援を行っている。	声掛けに注意し、尊厳を傷つけないように配慮することを基本にしている。職員には、不快な思いをさせないように、利用者を敬う気持ちで支援するように伝えている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入り話を聞くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の要望や自己決定を行えるような声掛けを行い、ご自身で選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の趣味嗜好に応じ、希望を優先し自由を感じていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣についてはご利用者の意思を尊重し、自身に選択していただき、職員はその支援を行う。毎月、理美容を行いご利用者、ご家族様と相談し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	ご利用者の嗜好を取り入れた献立を作り準備や、後片付けなどを職員と一緒に、楽しみながら食事できるように心掛けている。	一人ひとりの食べる力に合わせ食事ができるようにしている。外食の時は、普段味わえないものを食べ、喜ばれて貰っている。職員は、同じものを状況に応じて可能な限り一緒に食べるようにしている。誕生日にはケーキを用意し皆さんでお祝いし食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する介護老人保健施設の管理栄養士の助言をいただき、ご利用者の栄養管理を行い、水分摂取量をチェックし水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、協力機関の歯科医師からもご協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者、一人ひとりの排泄パターンを排泄表をもとに把握し支援している。	すべての利用者がトイレでの排泄を目標としている。できることは自身にやって貰い、職員は介入しすぎず、その人にあった排泄支援を行う事で残存機能低下を軽減させないようにしている。尊厳を傷付けず羞恥心を感じさせないよう寄り添い対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質の多い食材を取り入れたり、運動の時間を設け、自然な排便がなせれるよう支援している。また必要時は主治医との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の入浴したい希望に沿うように努めており、入浴中も会話を積極的に行い楽しく入浴していただけるよう支援している。	入浴を嫌がる人には、入浴してもらうために時間をずらして改めて声掛けするなどしている。ヒートショックを防ぐため、脱衣所と浴室の温度差をなくすようにしている。体調などで入浴できない時は、別の日に調整したり、清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者、個々人の身体の状況や生活習慣に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携して看護職員が管理責任を負い、処方箋の写しをご利用者のケースファイルに綴じ、職員全体で服薬把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の趣味嗜好に応じ、編み物や俳句づくり新聞での箱づくりなどをできる環境や時間を作り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは積極的に外での活動を支援しているほか、ご希望や季節に応じてご家族様のご理解のもと行事を支援している。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮して、近くの公園などに職員と一緒に散歩に出かけたり、職員と一緒に買い物などに出かけている。行事で出かけるときは、排泄用品、血圧計、体温計を準備して、体調不良に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の社会の維持や満足感を満たす為にご利用者とご家族様と相談の上お金を所持していただき、外出時など使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し、電話の利用や手紙のやり取りを通じて外部との関係維持を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は窓等の開口部が大きく外の景色がよく見え、日々季節を感じていただいている。また、食堂の壁に季節ごとに壁飾りをご利用者と一緒で作成し飾っている。食堂、談話室が隣接しており食事を作る際の音や匂いを感じていただいている。	一人ひとりの好みの場所がある、共有空間で過ごしている。歩行や移動のための動線を確保するため段差を無くし、必要最低限のものを置くだけにし廊下には手すりを設置している。感染予防のため、予防接種、温湿度管理、換気、手洗いがいをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のテーブルスペースでの編み物や、掘りごたつでのテレビ鑑賞など、ご利用者がおもいおもい、自由に生活していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室がご利用者にとって、安心して過ごすことができるような場所になるよう、ご家族様と相談し馴染みの家具や思い出の物などを使用していただいている。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。居室を間違わないよう、扉に名前を明示している。清掃や衣替えは、主に職員が行っているが、利用者とも一緒に行う時もある。家具やカーテンは、その人の馴染みの物を持ち込む方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の安全を図るため、常に施設内部の整理整頓に努め、各居室入口には分かりやすいよう名前の表示をしてある。		